



実学読書会第8回  
小倉紀蔵 『韓国』の行動原理』

11月28日

コメンテーター：黄璐

## 内容

- 『韓国 of 行動原理』 抜粋要約
- コメント

# 『韓国の行動原理』 抜粋要約

——日韓比較視点を軸に

- 一、法律と道徳
- 二、国民と政治
- 三、良い日韓関係を築くには

# 一、法律と道徳：道徳的韓国と法的日本

## ■ 韓国：道徳志向性

- 淵源：王朝的（儒教的）伝統：朱子学の朝鮮王朝における支配的地位による。
- 表現1：既定の法律に固執するより道徳面の正義を求める——「合意は拘束する」と一点張りするより、「悪法」「悪条約」は積極的に否定する。（p38）
- 表現2：正義が果たされない世界に「グリーンバンス」（不平、不満）を覚える——植民地支配されたことによる傷を訴える（徴用工、慰安婦）。

## ■ 日本：法志向性

- 淵源：封建的（非儒教的）伝統：（幕藩体制）、江戸時代の農村における「自治」（29）。
- 表現1：（合意の上に成立する）自治なので、合意、法、条約を守ることを一大事にする；反法的行為を最も嫌う。
- 表現2：道徳志向的な「反権力」の概念が薄い。

## 二、国民と政治：政治的な韓国人とガバナンスを持つ日本人

- 韓国：「市民」こそ国をひっぱっていく主役；  
ガバナンスを持たないが政治的
- 市民の由来：士大夫；帝王に進言する儒教的両班・士大夫メンタリティが市民に拡大；「王の間違った判断を正すことができるのは自分たちしかいない」という意識を持つ（49-51）。
- 特徴：自己統治の回路が閉鎖的に完結しておらず、常に外部の上位者から統制を受けるし、またそれに要求したり反発したりする（80）。
- 現状：政権よりも市民の「世論」の方がパワーを持つ局面がしばしばある。政治変革を促せる市民パワー（28）。
- 例：政府は財閥を処理する権力も持つーナッツリターン事件（42）。
- 例：政府・大統領府をコントロールできる市民運動団体の勢カーー政府を動きを左右できる挺身隊問題対策協議会（正義記憶連帯）の対日行動への干渉（47）。

## 二、国民と政治：政治的な韓国人とガバナンスを持つ日本人

### ■ 日本：ガバナンスを持つが非政治的

- **市民の由来**：江戸時代の庶民：農工商；（79）。
- **特徴**：それぞれの職分に従って、自らの生業の枠組内での閉鎖的な自己統治能力持つ人々；私的で、「政治権力なき職業的ガバナンス」（79-80）。
- **現状**：政治変革をうながす市民パワーに対して、国民の冷淡な目が存在する；多数派は、自己政治化を望まず、自分の仕事や趣味や生活に埋没することができる「幸福」を享受することを望んだ（82）；幸せでない人々が政治のことを考える、生活が幸せだったら政治のことを考える必要はないと考える今の日本人（83）。

## 三、良い日韓関係を築くには

### ■ 韓国と日本はお互いへの過度な依存をやめるべきだ

#### ■ 韓国が日本への依存：

- 歴史問題に起因する全てのことを日本のせいだとして他者化することによって、逆にその他者なしには自己の生存が続けられなくなるような関係性.
- 日本に対して「正しい歴史認識を持て」「自分たちと同じ考えを持て」と語る
- 多様な異論を許すべき (181) .

#### ■ 日本が韓国への依存：

- 左派：日本の封建性や非近代性や反道徳性や天皇制などを糾弾するという目的のために韓国を利用 (186) .
- 右派・嫌韓派：韓国は間違っていると主張することによって自らの存在を強固にする；同様に邪悪な他者に依存することによって生きている.

## 三、良い日韓関係を築くには

- 韓国は日本の反省と努力を過小評価するべきでない
- 歴史問題に関しても、かつて植民地支配をした欧米などの国家よりも真摯に日本は問題を直視し、解決しようと努力してきた（190）。例：早期に植民地支配に対する反省の意識が反映された歴史研究；1996国連クマラスワミ報告と河野談話で戦時の女性に対する性暴力問題に早くも向き合う（194）。
- 日本は韓国の「日本は不道德だ」という批判の声によって、推されて前へ進んでいるから、世界をリードして上のことができたのだ。
- お互いを真に深いレベルにおいて知り合うことによって、共に世界をリードする自覚を持つべきだ。

## コメント

### ■ 道徳・正義の問題と現実的・功利的問題

- 道徳志向性というメンタリティによる「当為」（べき）と「存在」（である）の挟間で生きる韓国.
- このギャップがいつまでも埋もれないことに直面するため、ただ現実を受け入れることはできず、グリーバンスに陥ったままになる.
- したがって、近代的先進国になっても、財閥のおかげで裕福になっても、心穏やかに満足できず、まだ人権侵害、資源搾取、自然破壊などの自分たちに関わる「悪」が解決されない限り、満足できはしない.
- 典型的に、日本との関係を改善することで自分たちも経済的にも国際的立場的にも得するとわかっているに決まっているが、利益と便宜を捨てても正義の立場を固守する.

## 道徳・正義の問題と現実的・功利的問題

- 慰安婦問題の上で、「主権免除」という他国を植民地に占領した当時の「合意」のみを呪文のように唱える、合意や一定に定まって法を恰も現実超越的に適用できるとする日本側と、法・合意より道徳・正義の方が大事であり、道徳に一致しない悪法を修正・排除すべきとする韓国（34-35）。
- → 日本も過去には不平等的条約に対して条約改正を要請したにもかかわらず、自分が不平等的条約の利益取得者になると、ダブルスタンダードをとり、合意は不可変的なものとして扱い、不平等であるとわかりながらも、合意は拘束するものだと言い張り、自分の現実的な利益を守ろうとする。
- 左派の韓国依存：「もし韓国人が日本の併合植民地支配に対して民族主義的な抵抗心を持たなかったら、もし韓国人が日本による経済的収奪を糾弾し続けなかったら、.....彼らはどのような論理で日本を批判できたであろうか。ほとんど不可能であっただろう」（187）。
- → 左派の日本人は韓国人に言われないと自ら韓国を侵略したことについて日本は間違っていると自発的に思うことが不可能であるということの意味する。日本の封建性などを批判するのは日本を西洋的近代にするためであり、日本の利益のために韓国から道徳の視点を借りただけで自身に道徳性がない。

## 道徳・正義の問題と現実的・功利的問題

- 歴史問題に起因するすべてのことを「日本のせい」だとするのは、邪悪な他者に対する依存かもしれないが、しかし「異論の余地」があるべきだというのは、日本のせい以外誰のせいだということか？ 侵略された被害者のせいだ、韓国が悪いと韓国人も考えるべきかどうか？（181）
- 「併合植民地支配というものがどのように苛酷で理不尽なものであったのか、そのことを**日本の為政者はたびたび謝罪し、反省してきた**」（192）。
- → 更なる例？